



平成18年度の大学運営上の重点取り組み分野

(年度計画のダイジェスト版)

【国立大学法人 滋賀医科大学】

(前文)大学の基本的な目標

滋賀県は、現在、人口の増加率が日本一高い県であり、「近い将来には、高齢化率が一番低い県(一番若い県)になる」と予想されている。このように増え続ける県民に対して、福祉や安心・安全な医療を提供すること及び住民のニーズにあった医学情報提供の場を設けることは重要な課題である。

また、滋賀県は中央に琵琶湖があるために、結果として環状になっている細長い県といえる。このため地域間のコミュニケーションが比較的とりにくく、医療機関や医療情報のネットワーク構築が求められている。

滋賀医科大学としては、このような地域の特徴を考慮しつつ、独自の新しい医学・看護学の教育・研究を推進するとともに、その成果を滋賀の地から国内はもとより世界に発信し、医学・看護学の発展に貢献すること及び高度な医療を提供することによって、人々の福祉の向上に寄与することを目標とする。

これらの目標を達成するために、構成員の「競争(個性化)」と「協調(和)」を軸にして、組織運営にあたる。また、教育・研究・医療の一層の充実と基盤強化の観点から近隣の大学との再編・統合を検討する。



平成18年度重点分野 【教育1／2】

● 学士教育

- 疾病をもつ一個人としての患者に適切に対応する全人的医療を十分に実現できる医療人を育成する。そのため、患者訪問実習・面接医療実習等、一般市民参加型の教育プロジェクトを実施する。
- 学生の質向上と本学入学を希望する熱意ある学生を獲得するため、一般選抜は前期日程のみとし、推薦入学試験制度を見直す。引き続き学士編入学枠を拡大し、メディカル・スクール化を目指す。
- 医師国家試験においては95%以上、看護師国家試験においては98%以上及び保健師国家試験は95%以上の合格率を目指す。

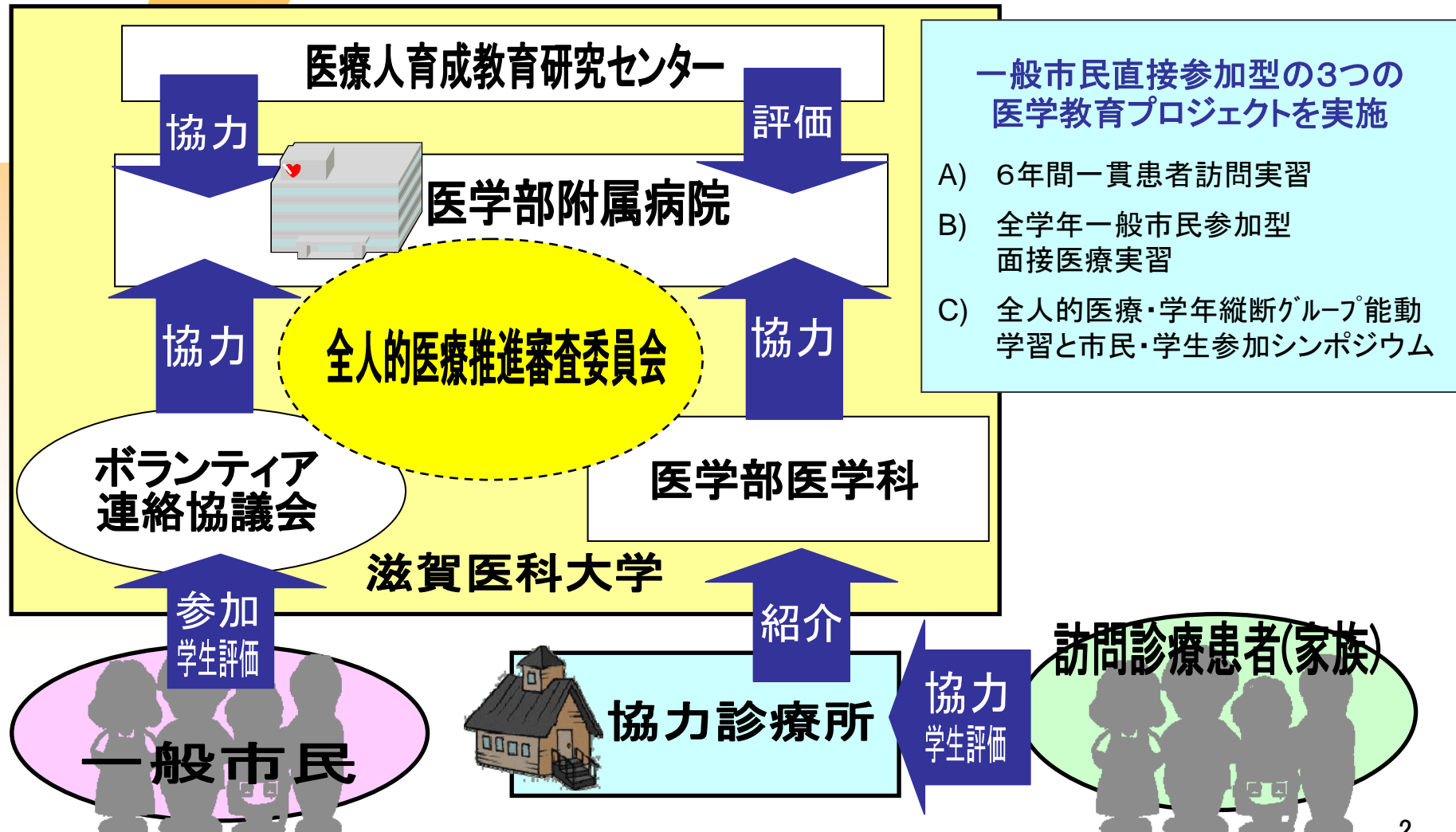
● 大学院教育

- 大学院教育では実験実習支援センターなど学内の教育研究施設等との連携のもとに、実習も含めて大学院教育の充実を図る。
- また、社会人入学者数の増加に対応した教育システムを構築する。



平成18年度重点分野【教育2／2】

● 一般市民参加型教育プロジェクトの実施体制





平成18年度重点分野【研究1／2】

● 5つの重点研究プロジェクトを推進

1. サルを用いた医学研究	サル疾患モデルやサル胚性幹細胞を用いた医学研究 <ul style="list-style-type: none">・人獣共通感染症(トリインフルエンザ)に関する基礎研究推進・アルツハイマー遺伝子をサルES細胞に導入
2. 核磁気共鳴(MR)医学研究	サルを含む動物モデルを用いたMR分子イメージング解析 <ul style="list-style-type: none">・高磁場7テスラ動物実験用MR装置をサルを含めた中型動物の実験に応用 MR画像による生体内標識幹細胞の無侵襲追跡技術と再生医療への応用 マイクロ体内ロボットやMR画像対応手術支援マイクロ波機器の開発
3. 生活習慣病医学	生活習慣病オーダーメイド医療の推進 <ul style="list-style-type: none">・生活習慣病オーダーメイド医療を目指した遺伝子多型解析の推進・脂質関連の酵素と遺伝子の動脈硬化進展リスクに関する症例・対照研究を開始 生活習慣病に関する国際易学研究の推進 <ul style="list-style-type: none">・若年男性の冠動脈石灰化と頸動脈肥厚による動脈硬化度と循環器疾患危険因子との関連
4. 地域医療支援研究	滋賀県と3大学（滋賀医科大学、滋賀大学、龍谷大学）による各種障害者の理解促進と障害者支援に関する研究事業の推進
5. 神経難病研究	神経・精神難病のサルモデル動物を用いた研究プロジェクトの推進 <ul style="list-style-type: none">・アルツハイマー病の画像診断法と根本的治療方法開発・統合失調症研究のためのサルモデルの確立と診断・治療法の開発



平成18年度重点分野【研究2／2】

● 滋賀医大の特色を生かした産学官共同研究プロジェクトの推進と支援

睡眠学講座を
中核にした「眠りの森」
研究プロジェクト

ゼロエミッション・プロジェクト
(新規産業創造 技術開発費)

動脈硬化症に関する
疫学研究
(GSK受託研究費)

nano粒子の
医学への応用
(NEDO)

バイオメディカル・イノベーションセンター



糖尿病関連遺伝子
に関するゲノムプロジェクト
(科学技術振興費)

マイクロ体内ロボット
(文科省都市エリア事業)

MR画像対応手術
(科学技術振興調整費)

ヒューマンサンプル室





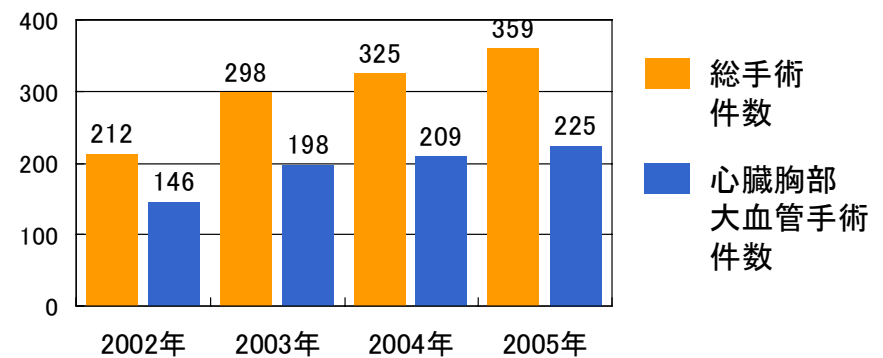
平成18年度重点分野【診療1／2】

● 高度専門的心臓血管診療の推進

- 心不全の集約的治療
- 心臓血管カテーテル法を用いた冠動脈疾患治療、不整脈の最先端医療の推進
- 高度専門心臓血管手術(心拍動下冠動脈手術)の推進
- “No refusal policy”の徹底



心臓血管外科手術件数



● 生活習慣病に関する質の高い医療の提供

- 生活習慣病診療センターにおける生活習慣介入外来の推進
(栄養、運動、ストレス、禁煙管理)
- 全身動脈硬化症のスクリーニングシステムの導入による早期診断と発症予防



平成18年度重点分野【診療2／2】

● 睡眠障害に関する臨床の重点化

- 寄附講座の睡眠学講座と睡眠障害センターの連携のもとに、不眠症や睡眠時無呼吸症候群に関する診療の活性化、睡眠障害原因の究明や治療の推進

● 病院再開発【目指す医療への実現へ向けて】

- 新病棟(D棟)を建設し、診療科の枠を超えた医療の推進、臓器別・疾患別病棟への移行など、より一層の機能集約化を進めるとともに、患者さまのアメニティの向上を目指す。
- 急速な手術件数の増加に対応するため、新手術棟の増設を検討し、手術機能の向上を図る。

新病棟(D棟)完成予想図





平成18年度重点分野【業務運営1／1】

● 経営に関する取り組み

- コスト構造改革を実施し効率化を目指すことで、余剰資金を創出する。その資金を活用し、一部は収入増の取り組みとしてパイロット的に実施していく。
- 医療現場と購入担当者の連携・協力体制を整えて、購入費の削減に取り組む。
- 学内構成員の節減対策意識向上を推進するため、昨年度立ち上げた全学節減ワーキング(教員、技術職員、事務職員等)での節減対策及び学内からの同対策の提案等を採用し、一般管理費節減に取り組む。

● 管理運営に関する取り組み

- 事務部門では5つの視点(リソース(人材)、サービス、業務効率、人事評価、組織生産性)に基づき課題を検討し、事務部門の機能強化に向けた取り組みを実行していく。
- 看護部門では業務改善ワーキンググループによる業務改善を実施する。
- 手術部では外部のコンサルティング会社による手術部業務改善調査を実施し、業務改善及び業務効率化を推進する。